

# 政翔会

市民と市政の翔け橋

Seisyokai 2022 春号

政翔会 近江八幡市桜宮町 236 番地 発行：2022 年 3 月  
事務局 議会内 TEL 36-5528 発行責任者：辻 正隆

ごあらさひ  
春の芽吹きとともに「前進」

皆さんこんにちは、今般の新型コロナウイルス感染症の蔓延は、我が国をはじめ世界全体の経済に多大な影響を与えており、政府においても2年以上に亘り、感染拡大の抑制と経済の維持・回復という微妙なバランスの中で各種政策が展開されています。

また、ロシアによるウクライナの主権を無視した侵略戦争により、我が国の安全保障についても危惧される事態へと発展しています。コロナショック・世界情勢危機がもたらす影響は間違いなく私たちの生活に波及してきています。

当市においても、国の地方創生臨時交付金と一般財源を活用した新型コロナウイルス感染症拡大防止対策・家計を支える生活支援・コロナ対策により直接ダメージを受ける生産者支援、事業者支援をして頂いている状況があります。

その様ななか、ウイズコロナ・アフターコロナを見据え、令和4年度当初予算が議会にて可決されました。当初予算では、市長選挙を控えることから、政策的経費を除いた骨格予算と位置付けられた予算が編成されています。

税収はコロナ禍における前年度見直しからの税収の回復を見込み、全体で約8.2億円の増額とされ、コロナ対策税制改正の軽減措置終了等を考慮し市税の増額、地方特例交付金については減額とされています。

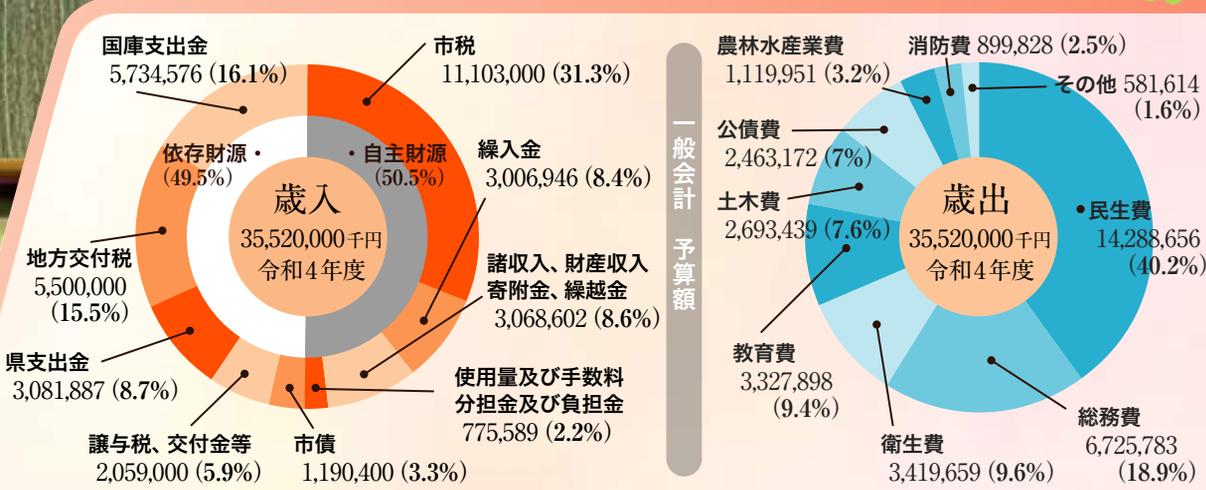
また繰入金においては約30億円と前年度比約2.5億円の増とし、歳入合計35.5億2千万円とされました。継続した投資的事業への対応と、市民生活や市民サービスに影響する事業については、最大限対応した予算であります。

今後においては、補正予算編成の際歳入歳出の精査を行うとともに、決算見込額を見据え、基金残高の適正な規模、今後の公債費の推移に注視し持続可能な財政運営に議会として注視してまいります。

私ども政翔会はコロナ禍を機に、個々の地域において、公衆衛生・医療・福祉に留まらず、住民生活、産業や就業の状況、国土保全のあり方も統合した「地域の将来ビジョン」を、主権者である市民の声にもとづいてつくり、実践する政策提案に努めてまいります。

まさに、地域の自治力が試されている時代であるといえます。本年度もよろしくお願い致します。

政翔会一同



## 令和4年度 予算

	平成 30 年度末	平成 31 年度末 (令和元年度末)	令和 2 年度末	令和 3 年度末	令和 4 年度末	
市債 (借金)	市債額	28,229,638 千円	26,833,201 千円	26,074,840 千円	25,236,115 千円	24,075,859 千円
	前年比	1.3%	△ 4.9%	△ 2.8%	△ 3.2%	△ 4.6%
	1人当たり	344,000 円	327,162 円	317,162 円	306,960 円	292,847 円
基金 (貯金)	基金額	15,269,009 千円	17,540,756 千円	19,008,042 千円	21,836,292 千円	20,977,373 千円
	前年比	9.7%	14.9%	8.4%	14.9%	△ 3.9%
	1人当たり	186,064 円	213,865 円	231,205 円	265,606 円	255,159 円

令和4年度の当初予算編成は、市長選挙が控えていることから骨格予算としつつも市民サービスを最大限確保し、また、国の「経済財政運営と改革の基本方針 2021」のテーマである「グリーン」「デジタル」「活力ある地方創り」「少子化対策」が市政運営においても非常に重要なキーワードとなるため、以下の4点を重点的に取り組むこととしています。

### 1 グリーン社会の実現に向けて

主な事業の内容

- 生ごみ処理機の購入に必要な経費を補助する。(ふるさと応援基金充当)
- 環境への負荷を軽減するため、図書館、道路照明灯、道路設置のパトライトをLED化する。(ふるさと応援基金充当)

### 2 デジタル技術の活用

主な事業の内容

- 市職員に対して、仕事にデジタルを取り入れるための力、データを活用する力、リーダーシップや企画力を身に付けるための研修を受講させ、住民サービスの向上を図る。(ふるさと応援基金充当)
- 市税のQRコード決済を導入する。
- デジタル格差をなくすため、スマートフォン教室を各コミュニティセンターで開催する。(ふるさと応援基金充当)

### 3 地域の魅力発信

主な事業の内容

- 近江牛生産農家による、繁殖メス牛の導入、繁殖施設の整備に対して支援を行う。(ふるさと応援基金充当)
- 地域の活性化や雇用の創出を図るため、市内の事業者を利用して住宅のリフォームを行う場合に補助金を交付する。(ふるさと応援基金充当)
- 近江八幡市消防団員に対して活動服を配布する。(ふるさと応援基金充当)

### 4 子育てしやすい環境の整備

主な事業の内容

- 就学前教育・保育充実のための保育士等を配置する経費を補助する。(ふるさと応援基金充当)
- 放課後児童クラブにおいて、清掃や環境整備を行う職員を配置する経費を補助する。
- 新生児聴覚検査の助成額の引き上げと多胎妊婦の超音波検診の回数を追加する。

# 国へ日野川改修促進要望活動

小川広司が参加しました。

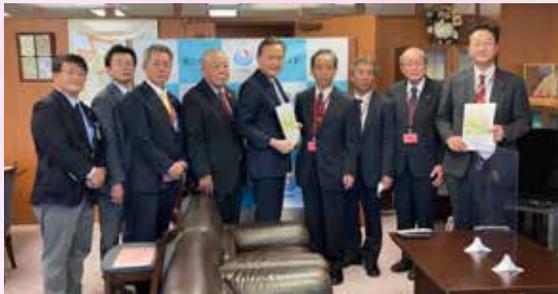
馬淵学区日野川改修推進対策協議会は、竜王町日野川対策促進協議会と令和3年12月3日(金)日野川の早期抜本改修の実施を求める要望活動を国土交通省他衆議院・参議院会館で行いました。小寺裕雄衆議院議員には、活動準備と当日同行していただきました。

日野川流域に住まいする住民にとっては、1日も早い改修をとの願いから、最近では毎年この活動がされています。今年も昨年に続きコロナ禍でしたが参加人数を制限し実施されました。

国土交通省水管理・国土保全局長への要望の際には、流域治水関連法に新規対策が盛り込まれたことを教えて頂きました。河川改修はこれまで下流から進めるのが普通であったが、最近の気候では上流での河川の決壊などが多く起こっている。そのために起こる被害を少なくするための対策でした。

日野川だけではなく活用できるものですが、今後、滋賀県はじめ関係当局が対策を検討していく必要があると考えています。

今回の要望活動は地元から馬淵学区4名、竜王町3名及び地元県議会議員で行いました。



国土交通省へ要望



2022年3月「JR鉄橋前後での日野川改修工事風景」

# 原油価格高騰対策に対する意見書

《市見書内容》

- 1 原油価格高騰による食料品の値上がりなど生活に密着したあらゆる物価の上昇も懸念されることから、国民生活の安定に向けた施策を講ずるとともに、生活困窮者に対する支援についても拡充すること。
- 2 原油価格高騰やコロナ禍の厳しい社会経済状況に鑑み、事業者に対しレギュラーガソリン160円 /ℓ超相当分について緊急に支援を行うこと。また、ほかの油種についても同様の支援措置を講ずること。
- 3 原油価格高騰がさらに長期に及ぶことが懸念されることから、国におかれては、迅速かつ効果的に原油価格高騰対策の充実・強化を図るよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年3月17日

※提出の際には表現が微修正される場合があります。

近江八幡市議会

## 中小法人・個人事業者のための

## 事業復活支援金

コロナの影響を受けた事業の継続・回復を支援

お問合せ:0120-789-140

売上高減少率	個人	法人		
		年間売上高 1億円以下	年間売上高 1億円超 ~5億円以下	年間売上高 5億円超
▲50%以上	50万円	100万円	150万円	250万円
▲30%以上50%未満	30万円	60万円	90万円	150万円

基準月を含む事業年度の年間売上高

## 滋賀県事業継続支援金(第4期)

令和4年

期間 3月16日から  
7月中旬まで

支給額 中小企業 20万円  
個人事業主 10万円

お問合せ:0570-200-575

## 近江八幡市立総合医療センター 手術支援ロボット 「ダビンチ」整備で 新たながん診療へ



当医療センターは、東近江圏域において最大の病床規模を有し、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、感染症指定医療機関及び災害拠点病院などの指定を受け、地域医療全体に貢献しています。

このコロナ禍でも大きな役割を果たしてきました。この2月には、コロナ禍にあるにもかかわらず脳死の方による臓器提供も行っておられます。

令和4年度予算には、新たな取り組みとしてがん診療のために手術支援ロボット「ダビンチ」を整備し、東近江圏域の他の医療機関との連携を図り、地域でのがん診療の向上に努めています。

コロナ禍で奮闘している総合医療センターに働く皆さんはじめ、地域の医療従事者の方々に感謝申し上げます。

## PICK UP 議会質問で 取り上げてきました!

01

### 合併浄化槽の更新時助成について

合併浄化槽設備は、大きな費用が必要となる浄化槽更新の時期が必ず訪れます。これは下水道につながる地域との大きな違いです。これまでは更新時にも、国・県・市からも補助金が出ていました。しかし現在、市の補助金は以前のままでありますが全体としては大きな減額となっています。国・県にはこれまで通りの補助金の復活を強く求めています。



02

### 道路行政は重要課題です

国道8号線に接続される岩倉バイパスは、一部でようやく用地確保へと進んできました。今後の進捗予定を確かに進めるための市行政の対応も大事となっています。

国道8号線のバイパスが彦根市から近江八幡市安土町までの経路が今年2月に示されました。詳細なルートは今後住民に示されていくようです。未だ何も示されていない近江八幡市から栗東方面へのルート決定には、近江八幡市の住民生活、産業の発展性など大きな課題があります。住民の声をお聞きしながら積極的に取り組んでいきます。

03

### 行政・教育分野での デジタル化を取り上げてきました

学校教育のなかではGIGAスクールと呼ばれる方で、電子黒板と合わせて、すでに子ども一人に1台のタブレットの利用の授業が行われています。行政分野ではコンビニでの住民票や印鑑証明などの取得も可能となっています。

デジタル化推進はこれからますます進む分野ですが常に住民サービスの向上がもとに無ければならないと考えています。



04

### 土地改良区事業への市の 適正な関与を求めてきました

土地改良施設が整備されてから数十年が経過し、施設の維持管理が大きな課題となっています。政翔会は全員が農業関係者であり、これまでも議会質問で土地改良事業に対する市の適正な補助金支出等を求めてきました。また農業関係車以外の車の通行が多い農道の管理等のあるべき姿も常に見直しを求めています。

05

### 通学道路の安全対策

通学路の危険個所の速やかな安全対策を求めています。昨年は、千葉県で起こった通学時の事故を受けての点検も行われ、令和4年度予算には対策費が計上されています。



## 編集 後記

私たち政翔会は、市民の皆様から負託を受けた者として、お示した基本理念に照らして、信念を貫かせていただきます。

何事についても可能な限り多くの情報を集め、様々な立場の方からご意見を伺い、多角的な視点を失わずに、主権者たる市民の利益を最大化するために正しい判断ができるように、努めてまいります。「次の選挙よりも、次の時代を考える」政治は生き物です。時計の針を1秒たりとも戻すことなく、前に進めてまいります。

小川 広司